

令和7年12月17日

新潟市教育委員会 教育総務課 御中

同 施設課 御中

新潟市こども政策課 御中

新潟市財産活用課 御中

南区役所 地域総務課 御中

南区役所 健康福祉課 御中

白南地区コミ協連絡会 会長 井上 吉一

12月23日検討会再開に向けた意見および提案

— 白南地区における「子育て総合支援型学校」構想の実現に向けて —

白南地区において進められている学校再編、放課後児童クラブの在り方の見直し、そして児童館機能の行方は、単なる施設配置や運営主体の整理にとどまるものではありません。それは、少子化・人口減少が進む農村地域において、「これからの時代にふさわしい子育て支援のあり方」を具体的な形として示す、極めて重要な政策的チャレンジであると私たちは捉えています。とりわけ、放課後児童クラブと児童館機能を複合させた「子育て総合支援型学校」という発想は、

- 子どもを“教育の対象”としてだけでなく、“地域で育つ存在”として支える
- 支援を必要とする子どもや家庭を、制度の狭間に取り残さない
- 学校再編という不可避の変化を、地域力の再構築につなげる

という点で、極めて今日的かつ実践的な意味を持つものです。

一方で、私たちはこの構想が「理想論」や「住民側の要望の積み上げ」だけでは実現し得ないことも十分に認識しています。だからこそ本提案では、**実現可能性と持続可能性**を重視し、以下の点を明確にしたいと考えています。

1. 新たな制度創設ではなく、既存制度の「合理的な組み合わせ」であること

本構想は、新たな行政制度や特別な枠組みを求めるものではありません。放課後児童健全育成事業、児童館事業、学校施設の複合利用といった、既に存在する制度・仕組みを、地域実情に即して再編・連携させるものです。これは、行政にとっても前例のない負担増ではなく、**既存施策の効果を最大化する取り組み**であると考えています。

2. 地域任せでも、行政丸投げでもない「協働型モデル」であること

白南地区には、長年にわたり民設民営の放課後児童クラブを運営し、質の高い実践を積み重ねてきた地域の力がああります。本構想は、その力を活かしつつ、児童館機能という公共性の高い領域については、行政が制度設計・品質担保・継続性確保の面でしっかり関与する「役割分担型の協働モデル」を想定しています。これは、行政の責任を軽くするものではなく、**限られた人的・財政的資源の中で、最も合理的な関与の仕方を探る提案**です。

3. 不登校・孤立・家庭負担の課題に対する「予防的投資」であること

白南地区では、すでに不登校傾向の児童生徒が一定数存在し、また家庭環境や人間関係の固定化による課題も顕在化しています。子どもが日常的に安心して過ごせる「居場所」を、学校と連続した空間として確保することは、問題が深刻化する前段階での支援、すなわち**将来的な行政コストを抑制する予防的施策**でもあります。

4. まずは「モデル地区」として段階的に検証できること

本構想は、全市一律の施策展開を求めるものではありません。白南地区という、課題が集中的に表れている地域だからこそ、モデル的に実施し、検証し、改善することが可能です。その成果は、将来的に同様の課題を抱える他地区への展開可能性を持つ、貴重な行政資産となり得ます。

以上の点から、私たちは本構想が「住民の願い」であると同時に、「行政にとっても合理的で、挑戦する価値のある施策」であると考えています。12月23日の検討会においては、ぜひ「できるか・できないか」という二者択一ではなく、「どのような関わり方であれば、行政として前向きに関与できるのか」「どこからなら検討を始められるのか」という視点での率直な意見交換をお願いしたいと思います。

白南地区としても、行政の皆様と同じ立場で、同じ方向を向き、持続可能な地域の未来を共に考えていく用意があります。本構想が、その第一歩となることを強く期待し、下記添付資料を添えて意見提案といたします。

【添付資料】

白南地区に「放課後児童クラブ＋児童館」複合の子育て総合支援型学校が必要な理由